

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2020年1月★第132号

「気候非常事態」と若者たち

理事長 長谷川 公一



長谷川公一理事長

皆さま明けましておめでとうございます。

2020年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年ですが、2020年の意味はそれだけにとどまりません。

1970年4月22日の第1回アースデイから50年。

2020年は、いろいろな意味で、日本と世界の節目の年

です。1945年の敗戦、広島・長崎の原爆の惨劇から75年。1995年1月の阪神・淡路大震災から25年等々。

国際的にとくに注目されるのは、2020年は気候変動に関するパリ協定のスタートの年だということです。2015年に合意されたパリ協定は、各国政府に2020年以降の温室効果ガス削減を求めています。

気候変動に関して、2019年はとても印象的な年となりました。オックスフォード大学出版局が「今年という言葉」に選んだのは「気候非常事態（climate emergency）」。

確かに、台風19号による丸森町や角田市、大崎市鹿島台地区などの浸水被害を目の当たりにすると、気候非常事態という思いを禁じ得ません。気候非常事態は、私たちの足元の問題として、既に現実化しています。9月の国連の気候行動サミットに合わせて「グローバル気候ストライキ」が一斉に呼びかけられ、2019年9月には、

この言葉の使用頻度は前年の100倍以上に急増したそうです。9月20～27日には世界185カ国で760万人以上が参加しました。

仙台でも、9月20日に「グローバル気候マーチ」が呼びかけられ、86人が参加しました。日本全体では、23都道府県の27都市で、5000人以上が参加、東京では約3000人が集まりました。

スペインのマドリードで開かれたCOP25を目前にした11月29日にも世界一斉の行動が呼びかけられ、仙台でも38名が行進しました。日本全体では、25都道府県で、約2000人が参加しました。

スウェーデンの15歳の高校生、グレタ・トゥーンベリ（Greta Thunberg）さんが2018年8月20日、新学期の初日から同国の国会議事堂前で、たった1人で始めた、授業を休んで気候変動対策の強化を求める「気候変動ストライキ」は、SNSなどを通じて、わずか1年でこれだけの世界的な反響と共感を呼びまでに至りました。

若者を中心とする新たな動きとして注目されます。

2020年は、社会を変えるための具体的な行動が求められている年と言えるでしょう。



9月20日、青葉通りを行進！

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 理事長挨拶「気候非常事態」と若者たち
- P2 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P3 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P4 仙臺農塾／かんきょう見聞記「地球の医者」
- P5 協同組合からのお知らせ
／目指せ100人！環境リレートーク 丹野優奈さん
- P6 インターン生が語る、気候変動
- P7 台原森林公園で紅葉が進む中、生物多様性を学習しました！
／仙台市のごみと下水のゆくえ
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.87

ご存知ですか？ 気候変動適応策！

最近、台風や大雨などによる気象災害が本当に増えてきました。以前よりも暑くなったとか雪の降り方が変わってきた



気候変動の影響についての講演（シンポジウム）

などと感じている方も多いのではないのでしょうか。こうした気候の変化は私たちの生活にもさまざまな影響をもたらします。台風や大雨による河川や下水道の氾濫、土砂崩れなどの災害はもちろんのこと、気温の上昇や強い日射などによる農作物の品質低下、猛暑による熱中症や伝染病を媒介する蚊の北上など、危険な影響がたくさんあります。

「適応策」の具体例

- ◆インフラ整備…大雨による浸水被害などを防ぐ。
- ◆防災対策…迅速に避難するための地域のハザードマップの確認や防災グッズの備蓄。
- ◆農業対策…栽培するお米や果物など農作物を高温に強い品種に変える。作付け時期の調整。
- ◆健康対策…猛暑による熱中症を防ぐためのエアコンの適正利用。こまめな水分補給。

こうした被害を防ぐには、省エネなどで温室効果ガスの排出を削減する「緩和策」は当然大事ですが、それだけではなく、気候変動の影響に対してあらかじめ備え、社会の仕組みや一人ひとりの生活のあり方を変えていくことも必要です。それが「適応策」と言われるものです。

世界の有識者の報告では、現在の「緩和策」を強化しても、今後もある程度の気温上昇・気候変動は避けられています。こうした状況の中で「適応策」は今後ますます重要になっていくと思われます。



講演する環境省・金剛一さん（シンポジウム）

MELONでは今

年度、宮城県から気候変動適応推進事業を受託しており、県民の皆さんに「適応策」を知っていただき、実践するためのきっかけ作りを行っています。



ハザードマップに興味津々の参加者（サイエンスカフェ）

詳細はMELONのWEBでご確認ください。皆さんもいざという時に備えてぜひ今から「適応策」について考えてみましょう！

実施済みの企画

- ◆サイエンスカフェ「暮らしの電気から考える！ 気候変動適応策！」
日 時：9月20日（金）17：30～19：30
場 所：仙台市市民活動サポートセンター
参加者：20名
講 師：早川昌子さん（NPO法人環境エネルギー研究所）
- ◆シンポジウム「未来のために今はじめよう！ 気候変動適応策！」
日 時：11月21日（木）13：00～15：30
場 所：仙都会館8F会議室
参 加 者：48名
講 師：鈴木智恵さん（気象予報士・防災士・宮城県地球温暖化防止活動推進員）、金剛一さん（環境省東北地方環境事務所）
事例発表者：荒川巖さん（仙台市環境局環境部環境企画課地球温暖化対策係主査）、小幡秀樹さん（株式会社サイコー総務経理部兼人事広報部参与兼部長）

- ◆サイエンスカフェ「気候変動適応策を知ろう！ ～考えていますか？ 適応策のこと～」
日 時：12月8日（日）11：00～14：30
場 所：尚絅学院大学地域連携交流プラザ（イオンモール名取内）
参加者：24名
講 師：鳥羽妙さん（尚絅学院大学環境構想学科准教授）

今後の開催予定

- ◆ワークショップ「実践力を身につけよう！ 気候変動適応策！」
①日時：1月18日（土）13：30～16：00
場所：多賀城市中央公民館
②日時：2月1日（土）13：30～16：00
場所：大河原町中央公民館
講師：【両日共通】鈴木智恵さん（気象予報士・防災士・宮城県地球温暖化防止活動推進員）、金剛一さん（環境省東北地方環境事務所）

新しい推進員の養成研修実施中！

宮城県では、現在77名の推進員が地球温暖化防止のための正しい知識・対策を普及させるため県内で活動しており、今年度も宮城県委託事業として新規推進員の募集＆養成研修を実施しています。

今年は22名が応募、10月から12月にかけて3回の養成研修を受講しました。第1回目は地球温暖化の基礎知識や推進員制度について、第2回はワークショップを通して話し方やコミュニケーション力を身につける研修を行いました。

第1回、第2回とも講師を務めてくださった鈴木智恵さんは気象予報士であり、推進員です。鈴木さんが「2100年の天気予報」を実演してくれた時には拍手が沸き起こりました。



講師の鈴木智恵さんと
2100年の天気予報（第1回）

た。さらに今後の影響についてお話をいただき、私たちが今何をすべきなのか、どう備えるのかについて参加者は真剣に考えてい

ました。また、発音練習や早口言葉、ワークショップを通して受講者同志の交流もでき、楽しんで研修に参加していました。

12月に行われた最後の研修では現推進員との合同研修を行い、交流しながら学ぶことで、推進員活動へのイメージを膨らませているようでした。

今回の養成研修を受講した新規推進員は、2020年4月に宮城県知事から委嘱され、推進員活動を始めます。来年度からの活躍に期待です！



新規と既存の推進員が混ざり
グループワーク（第3回）

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター訪問記（Vol.2）

数ある地域センターの中で滋賀県地球温暖化防止活動推進センター（以下、滋賀県センター）をヒアリング先として選んだ理由は、平成28年に発行された「地球温暖化防止のための環境学習教材集」の内容に驚かされたからです。とても分かりやすく使いやすいという印象を持ちました。まず初めにテーマ別・講座形式別プログラム一覧で全体像がつかめます。例えば、対象が幼児から高校生以上に区別され、テーマは6個、①エネルギー②食べ物③いきもの④省エネ／節電⑤ゴミ／買い物⑥温暖化に分類されています。さらに内容については1頁ごとに説明があり、時間経過も併記されています。環境学習は幅広く、どこから手を付けたらと悩んでいる教員や自治会役員の方々は多いはず。滋賀県センターによるこの教材はそんな方々にどんなに役に立っているか想像がつかます。

私が特に注目したのは「デートプランニング～時にはエコなデートもしよう～」のプログラムです。こんなアプローチがあったのかと目からうろこのプログラムはどのように開発されたのかにとっても興味を持ちました。滋賀県センターのホームページでも公開されているの

で、参照いただくと納得されると思います。

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター
環境学習のホームページ

<https://www.ohmi.or.jp/ondanka/study/>

学校授業向け

デートプランニングゲーム

～時にはエコなデートもしよう～

ねらい

- ①デートという若者の興味を通して、日頃の生活でエコな意識を持つようにする
- ②どれがエコかを比較できる力を身につける
- ③広い視野で温暖化問題を考えることの重要性を理解する

受講者数：15人程度
所要時間：30分
対象者：高校生以上

講座形式：ワークショップ
テーマ：温暖化

<使用するもの> デートプラン計画表

進行プログラム（所要時間）

活動1：講座の進め方の説明（5分）（写真1）

1）A男君とB子さんが素敵なデートができるように各グループでプランを考えることについて説明を聞く

活動2：デートプランの作成（10分）

1）・乗り物は何かを使うか
1.スボツカー 2.ハイブリッドカー 3.バイク 4.バス 5.徒歩
・食事は何を食べるか
1.天ぷらうどん 2.ハンバーグ 3.鮭のムニエル 4.ハンバーガー 5.梅干しのおにぎり
・どこへ行くか
1.映画館 2.ショッピングセンター 3.カラオケ 4.遊園地 5.びわ湖

デートプランニング

仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

「ロングトレイルでみやぎの秋鮭に出会う会」

日 時：11月20日（水）10：00～13：00

ゲ ス ト：日本料理人 佐藤将人さん

会 場：みちのく潮風トレイル

名取トレイルセンター（名取市関上）

参加人数：10名



いくら料理しても足りないという佐藤さん

今回の仙臺農塾は、NPO法人みちのくトレイルクラブ（主催）と「秋鮭」をテーマに開催しました。南三陸町出身の佐藤将人さんをゲストにお迎えし、鮭のさ

ばき方やイクラの仕込みを実演していただきながら食材のお話を聴きました。

料理好きの参加者が集まり、魚の三枚おろしのコツや調理についてなど盛んに質問がありました。佐藤さんの見事な手捌きに参加者も感心して見入っていました。

また、広瀬川で鮭の放流などの活動をしているカワラバン代表の菅原正徳さんに、鮭の生態など詳しくお話しいただき

しました。近年、海水温度が上昇し、鮭が南下できなくなっているといった説もあるようです。

八戸市から相馬市まで南北に走るロングトレイルは、海外からも多くのトレkkerが訪れているとのこと。

佐藤さんの料理に対する情熱が、周囲に伝わり、とても豊饒な時間を皆さんと過ごすことができました。



郷土への想いを食材で表現



「地球の医者」

落語篇⑮

かつら し じ ぞく
桂枝雀「夏の医者」

石垣政裕（MELON理事）

マドリードでCOP25が始まりました。9月に国連本部で開かれた気候行動サミットで、石炭火力発電を推進しているという理由から、首相演説が断られてしまった日本は、いったい何をしているのでしょうか。ああ、そういえば仙台市でも新しい火力発電所が新設されていましたね。2019年の秋（9月～11月）仙台市も降雨量が統計史上最多となるなど、日本全国、身の回りにも気象災害の危機と隣り合わせでいる状況が続いているのに。

太陽がやっと照りつける夏に、おそらく今でいえば、熱中症で倒れたお百姓の父のために、その息子が八里半も離れた隣村まで医者を呼びに行って、医者とともに「ウワバミ（大蛇）」に飲み込まれてし

まうという、奇想天外な落語。桂枝雀の「夏の医者」（「落語 昭和の名人 完結編5 桂枝雀 式」付属CD、2011年4月、小学館）を聞いてみましょう。

医者に、病人が何か食べたかと聞かれると、息子はチシャ（レタスなどのような葉物）をたくさん食べ過ぎたと言います。そうですね、暑い夏はさらりとしたものですよね。飲み込まれた医者息子とは、ウワバミの腹の中で、下剤を蒔いて出てくるには出てこられたのですが、薬箱を持って出るのを忘れてしまった。医者がもう一度ウワバミの口のところへ行行って、「飲み込んでくれ」といいますが、ウワバミは「夏の医者は腹に障る」と断ります。「夏のチシャ」と「夏の医者」……ううむ。

日本も6兆円を越える莫大な税金を使ってしまうことになる、戦争という環境破壊をもたらす戦闘機を150機近くも導入するのをやめて、そのお金を地球温暖化防止策や災害対策などに使ったら「地球の医者」の先頭に立てるのに。「戦闘を断つ」と「先頭に立つ」……ううむ。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

「グリーン購入 お買いもの体験」参加者募集

グリーン購入ってどんなこと？ お買いもの体験をしながら学んでみましょう！
お店の中で環境ラベル商品などを探して、ワークシートにまとめます。

日 時：2月8日（土）10：30～12：00

会 場：みやぎ生協太子堂店メンバー集会室（仙台市太白区諏訪町1番1号）

参 加 費：無料

募集：小学生以上の親子 10組（申し込み多数時抽選）

主 催：せんだいE-Action 実行委員会 協力：みやぎ生活協同組合

申込締切：1月29日（水）

申込方法：住所・電話番号・参加希望者全員の名前と年齢をメールまたはハガキ、FAXで申込。

当選者には1月31日（金）まで、メールまたはハガキでお知らせします。



<お申込み・問合せ先>

〒980-8671 仙台市環境局環境共生課

TEL：022-214-0007 FAX：022-214-0580

MAIL：kan-event@city.sendai.jp



目指せ100人！

環境リレートーク



第75人目の執筆者

丹野優奈さん

（花工房はゆな花壇
／仙台たんの農園）

花苗、鉢花、切り花の生産と庭造りをしながら、
主人が取り組む有機栽培について学び、「人と環境
に優しい農業」を心に、時代にあった農業を営んで
いこうと日々試行錯誤しています。両親から「植物
の力を生かして草花を育て、庭造りを通して生態系
を豊かにする」ことを学び、嫁ぎ先では「農薬や化
学肥料を使わずに作物本来の美味しさを引き出す」
ことを大切にしています。こうした営みは、人の心
を豊かにするとともに、環境の保全と子どもたちの
健やかな未来に繋がると信じています。

現在子育てをする中で、自分のやることに筋を通
すことを大切にしています。「人と環境に優しく」
と掲げて農業を受け継いでいますが、自分の生活に

おいては、そこまで意識をしてこなかったのが正直
なところでした。無駄なエネルギーを使用しない、
ごみの分別をきちんとする、ものを大切に使う……
など、日常の小さなことから自分にできることを考
えるようになりました。最近は娘とお散歩がてら近
所のスーパーにリサイクルできるものを出しに行く
のがささやかな楽しみであり、こうした姿を職業か
らだけではなく日頃から示していくことが親として
大切なことだと思っています。

農業は、自然界と人が繋がる魅力ある営みである
と思っています。自身の生活を省みながら、自然と
共に地球の声に耳を傾け、丁寧に関係を築いていく
ことで、皆さまに誠実な農作物をお届けしたいと
と思っています。

<連絡先>

花工房はゆな花壇 仙台市太白区秋保町長袋字菅刈山44-7

URL：http://hayuna-garden.wixsite.com/mysite

仙台たんの農園 仙台市若林区沖野7丁目9-15

URL：http://sendai-tannouen.wixsite.com/masonry-layout

… 次号執筆者紹介 …

平松希望さん（平松農園）



インターン生が語る、気候変動

COP25に参加して

平澤 拓海 (2019年度インターン生)

COP25(国連気候変動枠組条約締約国会議)は、12月2日から13日に開催されました。前半は事務レベルで細かな



派遣団の一員として参加(左から2番目)

交渉が行われ、後半は大臣クラスの会合にトスアップします。注目ポイントは、2020年から始まるパリ協定を目前に温室効果ガス削減目標を引き上げる機運をどこまで高められるのかということでした。また、トップダウンとボトムアップのアプローチ、市場メカニズムと非市場アプローチがまとめられたパリ協定第6条を焦点に各国がどこまで取り組みを強化できるのかという点です。

実際の交渉が行われている会議室内での議論はもちろんのこと、会議室の外での動きもルール作りにおいて大きな影響を与えます。その1つは言うまでもなく、各国のパビリオンブースです。私は直接会議の場に参加でき

たわけではありませんでしたが、こうした国ごとのブースで直接世界の現状を見聞きし、アクションや議論を通して気候変動への解決を働きかけました。

強く目立ったのは石炭火力反対に対するアクション、そして具体的な解決を求める若者の声です。日本のニュースでも大きな話題になりましたが、日本は3年連続で不名誉



COPデモ

な化石賞を受賞しました。加えて12月6日にはマドリードの中心部で50万人規模の大きなストライキが行われました。今年は世界中で異常気象が起き、Fridays For Futureや各地のNGO等から強い変革を求める声が上がりました。結果として各政府の対応は不十分なままだったかもしれませんが、目標値の引き上げに強い影響を与えました。このような場に直接触れ、強い批判に非常にショックを受けながらも解決に向けて志を改めました。

※2月1日「COP25報告会 in 仙台」で発表予定。

気候変動に具体的対策を

成澤 朋紀 (2018年度インターン生・水部会)

以前、私は南太平洋の島で暮らしていた方とお話したことがありました。彼が暮らしていたのは、コバルトブルーの海と白い砂浜が広がる、とても美しい所だったそうです。しかし、彼はその国の将来が不安だと言っていました。なんと、彼の暮らしていた国が、失われてしまうかもしれないと言うのです。その原因が、地球温暖化の影響の一つである、海面上昇です。

海面上昇は、南極やグリーンランドなどの氷河が融けたり、海水が温められて体積が増えたりすることなどが原因です。このまま何も対策をとらなければ



海面上昇：キリバス共和国首都タラウ
(写真提供：ケンタロ・オノ)

ば、世界の平均海面水位が2100年には0.45～0.82m上昇してしまうと言われています。彼の暮らしていた島は、高い山のない小さな島であり、このままでは2050年には住めなくなってしまう。現在でも既に影響が出始めており、潮が高くなる大潮の日には、街に海水が上がってきてしまうそうです。そして、彼は井戸水の中に海水が混じってしまうことが一番心配だと話していました。小さい島だと大きな川が無いので、地下水に海水が混じってしまうと飲み水が無くなってしまうのだそうです。

彼から、高校時代によく訪れた青春の思い出の場所の写真を見せてもらったことがありました。しかし海面上昇の影響で波に削られ、全く違う景色に変わってしまったと話していました。思い出の場所が壊れていき、やがて慣れ親しんだ土地を離れなければならないかもしれない。そのような人々のことを想うと、地球温暖化を食い止めなければならない、そう思いませんか。

台原森林公園で紅葉が進む中、生物多様性を学習しました！

「杜の都の公園探検隊！ ～in 台原森林公園～」

日 時：11月9日（土）10：15～12：00

場 所：仙台市 台原森林公園

講 師：村上孝夫さん（日本薬用植物友の会）

参加者：17名

紅葉が進んでいる台原森林公園の植物の見学会を行いました。集合場所の旭ヶ丘駅の改札を出ると紅葉が美しく、清々しい秋晴れで絶好の見学日和でした。今回の目的は公園内の植物を観察することで「生物多様性」を学習してもらうことです。さらに公園内の清掃活動も行いました。



茎がマムシの模様の「マムシグサ」

まずは講師の村上孝夫さんから公園内の植物についてお話していただきました。紅葉が進んで落葉しているハート形の葉っぱが特徴の「カツラ（桂）」や、真っ赤に紅葉している「ニシギギ（錦木）」

など、いつも通り過ぎるだけで名前も知らなかったという参加者が多かったです。この公園内の茂みに入っていくとなかなか知られていない植物もありまし



いつも気になっている木の名前を知る一日でした

た。赤い丸い実をたわわにつけてマムシのような模様の茎が特徴の「マムシグサ」。毒草ですが、漢方では炎症止めに使われていることもあったようです。ごみ拾いの成果は、130gでほとんどプラスチックごみでした。重量が少なかったのは当日他にごみ拾いをしている団体があった影響もありましたが、最近話題のプラスチックごみは自然豊かなこの公園にもあることが分かりました。

他にもたくさん紹介したい植物がありました。もし台原森林公園を散歩する時には葉っぱや木の幹など1つひとつ注意深く植物を観察してみてください。それぞれの植物の個性を発見することができるかもしれませんね。

「仙台市のごみと下水のゆくえ」

「ごみのゆくえを見てみよう！」

日 時：11月22日（金）9：30～15：10

見学先：①松森工場（仙台市泉区松森字城前135）

②南蒲生浄化センター

（仙台市宮城野区蒲生八郎兵工谷地第二）

参加者：21名



仙台市民が1週間に出すごみの量を種類ごとに実感！

ごみを減らす大切さを実感するために、処理現場を見学してきました。まずはごみのゆくえ。松森工場は、家庭や会社から出たごみの焼却処理をしています。毎日仙台市内から約200台もの収集車が

集めてきたごみを受け入れ、ダイオキシン類が発生して環境を汚染しないよう、高温で燃やしています。見学に来た子どもたちが3Rに関心をもってもらえるよう、工場内にはさまざまな工夫があり、幼いうちから環境のこ

とについて考える機会の大切さを感じました。

次は東北最大の下水処理場、南蒲生浄化センターです。下水の浄化は、①下水をゆっくり流して汚れを沈ませる物理的処理②微生物に水中の汚れを食べさせて分解してもらう生物処理③きれいになった上澄みを消毒して放流、という流れです。東日本大震災により下水処理できなくなった当時の対応などを映像で見せてもらい、下水処理もあってこそ快適な生活ができることを感じました。驚いたのは、下水処理にかかる電気代。なんと、毎月約5千万円！ 微生物を活発にするために酸素を送ったり、污泥の焼却処理に電力がかかるそうです。処理負担を軽減するためには「トイレットペーパーの無駄遣いをしない、台所で油を流さない」こと。食器などの油汚れはウエスで拭き取ってから洗うようにしたいですね。環境を守ることは一人ひとりにかかっていることを改めて感じました。



津波の直撃を受けた震災遺構

「あなたが変われば世界も変わる！」

2019年度宮城県の1世帯から排出されるCO₂の用途別割合を記載した環境小冊子『あなたが変われば世界も変わる！ 2019』を12月に発行しました。

昨年度は要望に応えられないほどの需要がありました。温暖化の仕組みの仕掛けページを含め、エネルギーをトピックにしています。パリ協定で各国が掲げた削減目標に向かってスタートするのが2020年です。日頃の気候変動の問題周知・広報にお役に立つはずですよ。

◆問合せ先：ストップ温暖化センター
(TEL: 022-301-9145)



MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

1/20 (月)	みやぎ里山応援団 例会
1/21 (火)	情報センター 例会
1/25 (土)	「ネイティブと英語で学ぶカナダの自然とくらし」開催
1/28 (火)	食部会 例会
2/1 (土)	「COP25 報告会 in 仙台」開催
2/1 (土)	ワークショップ「実践力を身につけよう！気候変動適応策！」大河原町中央公民館にて実施
2/6 (木)	MELONcafe 企画部 打合せ
2/15 (土)	「薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ」開催
2/20 (木)	4R 推進部会 例会
2/27 (木)	「ごみ減量自治体会議 in 東北」(共催)

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

省エネチャレンジキャンペーンみやぎ 冬の陣！

応募期間：2020年1月6日(月)～2月28日(金)

キャンペーン
チラシ(PDF)
はこちら→



メールでの応募は
←こちらから

(応募方法を必ずご確認ください)

編集後記

■秋に蔵王で初めて里芋掘りをしてきました！ 親芋に子芋、孫芋がどう成長しているのか良かったです！ 早速、秋の味覚で芋煮を楽しみました。おいしかったなー♪(菅田)

■COPも知らずにいた2年前。先のことは判りませんが、プラスチック容器や袋に対して「違和感」を覚える世の中になるのめすぐ目の前なのかもしれません。(三浦)

■冬に生まれた私ですが、冬が苦手です。ただし、餅があるので乗り切れます。万歩計をともに食べ過ぎに留意します。多少なりとも、食品ロスの削減にはなるでしょうか。(山形)

〈会員状況〉

567 名

法人 59

任意団体 10

個人 498

2019年11月30日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用いただけます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL https://melon.or.jp

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。



この印刷物は、
輸送マイレージ低減によるCO₂削減や
地産地消に着目し、国産米ぬか油を
使用した新しい環境配慮型インキ
「ライスインキ」で印刷しており、
印刷用紙へのリサイクルが可能です。